

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		すまいるガーデン				公表日		2024年	10月	24日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	3	・やや狭いと感じています。療育時間が長い日等は外出活動を積極的に取り入れていきます。 ・スペースが充分に取れている訳ではありませんが、その子ごとのスペースを作ったり、勉強や遊び工作等目的に応じてスペースを確保しています。 ・広い室内ではないですが、子ども達にとって安心感をもちたしやすく、リラックスした状態で療育を受けられると思います。 ・限られたスペースの中で、遊具の配置や遊び方を工夫しています。 ・決して広くないものの、視界が開けた構造ではあるので、職員目線では死角となる所がほぼありません。	・室内での活動は年齢、体格差、個人個人の特性等に留意し、利用曜日の職員の体制や、利用希望曜日の調整により、狭い室内でも安心、安全に過ごしてもらえる様工夫する必要があります。 ・室内に留まらず、屋外、公共施設の利用により、スペース問題をカバーする際には戸外活動出来る曜日、時期が限定的になる為外出先の選定に苦慮することがあります。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8	0	・現在は有資格者で構成されたメンバーです。 ・利用人数や介助が必要な児童が利用時には、職員の人数を多めに配置しています。 ・その日の利用者数に応じてシフトが組まれていると思います。	・職員の配置数は整えていても、様々な事由で欠員が出る事も考えられ、その補填が効く体制は常々の課題となります。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	・手に届きにくい場所での保管の工夫や特性に応じて玩具の量の調整等、環境整備に努めています。 ・現在車椅子利用の児童が居ない為、完全なバリアフリーでははなっていないが、段差の無い様に、クッションを敷き詰めている。 ・子ども達が支援を受ける療育質では、荷物管理場所や、手洗い場、トイレ等分かりやすく写真を貼ったり、S字フックの取りつけて、自己管理をしやすく工夫しています。 ・子どもが触れない方が良い物が、管理しやすく、予期せぬ行動をふせぐ事が出来ています。 ・構造上バリアフリーではないものの、療育室全体が見渡せ、療育に必要な道具や遊具も分かりやすく配置している。 ・シンプルな居室に家庭的でわかりやすい収納を用いて、子どもが自分のベースでしたい事に取り組める様になっています。	・年数が経っている為、今後安全上補修や改修が必要となる箇所が増えてくる事も想定しておき、必要に応じて環境整備に努めていきます。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	・お気に入りの場所等のごだわりが見られる児童さん等にはマット配置、ソファ配置をしています。 ・フロア内を見渡せる様に工夫しています。毎日掃除を行い、清潔を心がけています。 ・毎日療育の終了後と開始前には掃除を換気を徹底しています。特に水周りの掃除には気を付けています。 ・室内の温度等を調整し、心地良い空調を保っています。子ども達に合った飾りつけや教材を目に見える場所に飾り、居心地の良さに配慮しています。 ・清掃と整理整頓は毎日行っており、活動しやすい空間を整備しています。	・狭い空間の為、感染症流行の際や、毎年のインフルエンザ流行期、新たな感染症流行の際には、室内の予防対策、換気、消毒液類等の備品の整備が継続的な課題であり、事業所で感染拡大させない意識向上を必要とします。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	・手狭ですが二階の空間を必要に応じて提供しています。 ・基本的に皆さん一階の療育室で過ごしていただきますが、必要に応じて二階の療育スペースも職員付き添いで使用する場合があります。 ・大人の目線では死角は無いものの、子ども目線では少し小さめのスペースとして、落ち着ける空間です。	・過去に取り乱し攻撃的な行動に出してしまう児童を、落ち着いてもらう為、二階の療育室にて安定を図ったが、落ち着く事が難しくなっている児童と階段を上がらないといけないという危険リスクがあります。同様の対応が必要な際、職員の体制により危険を回避する、若しくは別の方法を考える等、その時々での最善の判断が必要となります。 ・完全な個別空間を作る事は現時点では難しいです。				
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	・従業者の意見やアイデアの取り入れを常々行い、業務改善を行っています。 ・このサイクルの枠に収まらない部分で、微調整しながら業務を行えています。 ・職員会議を行い意見交換しています。 ・意識の高い職員が多いと感じています。	・出来る限り職員が参画していますが、すべての非常勤職員と情報共有出来ていない部分もあり統一した支援が行われるようにしていきます。				

業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・一年に一度意向聴取を行っています。これからも改善努力を継続します。 ・毎回保護者のニーズを受け止めて、改善出来る所はすぐに対応しています。 ・保護者からの返却後、職員間での共有をし、改善出来る所は常にアップデートしています。 ・支援プランの目標や進歩を保護者と共有して、評価に基づき、適切で効果的な支援を可能にしています。 ・評価表によるご意見等の情報共有は行われており、その都度の見直しをします。	・評価表配布時に、回答、提出期限を設けていますが、提出の無いご家庭も一定数あります。複数事業所を利用されている場合、その数だけ、回答しないといけない負担は大きいと推察され、期限が迫っている、若しくは過ぎている保護者に対し、提出をお願いする事に躊躇します。 ・評価表に記入しづらい等の、想いのくみ上げの手法を模索する必要があるように思います。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・常勤者はもとより、非常勤職員の意見もその都度必要に応じて行っています。 ・職員会議で話をする。良い意見はすぐに実行している。 ・業務改善に繋がるよう、各自意識しています。 ・小規模施設で、送迎等外れる職員もいるため全員での意見交換は難しいが、連絡ノートや日々の共同作業にて改善に繋げています。	・すべての職員が意見を出せる事が出来るように関係性の構築や職場環境の整備に努める必要があります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	6	・今の所外部評価はしていません。 ・保護者や職員間以外で具体的にアドバイスをいただく方は居ませんが、同業の方とのコミュニケーションや情報の共有等はしています。 ・外部評価があればより良い業務環境になると思う。	・外部の第三者を選定する必要があります。 ・今後、外部評価をしていただく事が出来るよう検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	・外部研修等の開催がある際は、出席する様努めています。 ・研修には出来るだけ多くの職員が参加しています。 ・コロナ禍で開催がなくなっていたが、少しずつ戻ってきており、今後も予定しています。	・研修や学習会の開催時間によっては、支援時間にかぶる為、受けたくても受講を断念せざる負えないこともあります。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	・義務化以降は作成、公表に努めます。 ・これから行っていきます。	・義務化される「支援プログラム」を深く知り得た上での作成となります。現在は手探りの状態です。 ・今後、常に子どもに適した支援プログラムが作られるよう、知識を深める必要があります。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	・おおむね6ヶ月に一度、丁寧に作成する事が出来ています。 ・出来ている。 ・子どもだけでなく、保護者との日々のやり取りの中からも支援に繋がるヒントを得て、分析が行なわれています。	・実際は発信力の弱い児童に関しては保護者ニーズが優先してしまう計画となることがある為、児童との関わりの中で日頃から観察や寄り添いをおこない児童自身のニーズをくみ取る必要があります。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	・担当者会議以外の平素時も話題を繰り広げ、情報の共有や周知に努めています。 ・職員の意見も取り入れてもらっています。 ・会議だけでなく、職員間でしっかり情報の共有が出来よう連絡ノート等も活用し、検討に繋げています。	・計画を作成する際に、直接支援に関わる職員の意見のくみ取りは行っているが、非常勤職員も含め全てというわけではないので、全体で共通理解に努める必要があります。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	・連絡帳等、身近に支援計画を目にする事が出来、日々の支援に活用しています。	・それぞれが確認する様な声かけが必要です。 ・職員一人ひとりの意識を高め、支援内容をきちんと理解する必要があります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	・日々の行動観察を定期的に行い、子どもの変化や成長を記録しています。支援者同士で観察や評価の基準を明確にし、共通の認識を持つ様にしています。 ・特に日々の行動観察は注意して行われている。	・家庭状況等によりインフォーマル支援の積極的支援が難しい場合の検討が課題です。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	・令和6年4月から見直しのお示し時より、計画書の様式変更や5領域を踏まえた目標設定としています。 ・本人支援が中心となっているが、家族をはじめとする本人を取り巻く環境についても大切な支援ととらえ、必要に応じて設定している。	・実際には計画に位置付けても、「地域支援・地域連携」においては地域との結びつきの弱さから困難なことも多いです。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	・主に常勤で行ないますが、意見の盛り込みは非常勤も参加します。 ・常勤の職員を中心に皆でプログラムを考えて行っている。 ・年間を通しての他、季節や長期休暇等も考慮して行っている。	・立案したプログラムの内容によっては、個々の障害特性によりスムーズな活動とならない場合は再度の検討や見直しの必要があります。 ・プログラムの立案にあたり、支援方法等の知識も必要とする為、研修や勉強会などで職員一人ひとりの支援力を高める必要もあります。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	・企画やイベント立案時には様々なアイデアを出し合っています。 ・新しく出来た施設や児童の行きたいプログラムも取り入れて考えている。 ・室内での活動と屋外での活動を交互に行う事で、活動のバリエーションを確保しています。 ・上記立案時には留意して工夫している。	・固定化しないよう配慮していますが、活動の内容によっては、固定化し継続する方が良いものもあります。 【固定化（ルーティン化）を好み、安定が図れる児童もいるため。】

の 提 供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	・その時々に応じ、個別活動と集団活動を見極め、支援を行っている。 ・短期長期の目標を設定し、子どもの発達段階や状況に合わせて、それぞれに応じた支援を行っています。 ・目標設定においては、個別的グループ支援を視野に作成しています。	・計画で組み合わせがあったとしても、実際には特性やコンディションによってはスムーズな支援につながらない場合は、計画の見直しや修正の見直しを検討することに留意します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	・非常勤である為、毎回参加は出来ていないが、引継ぎノートで前日までの事を確認している。 ・パート職員にも物事の経緯に至る所で伝達出来るよう連絡ノートや各報告書にて記して連携を取れる様にしている。 ・日々の療育活動前、必ずその日の活動の流れや、利用児童の確認を行う様にしています。	・出勤時間が異なり、打合せを必ず行える状況でないことがあります。 ・その日のうちに周知出来ないものに関しては翌日に共有するようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	8	0	・打ち合わせの他、連絡ノートを用いて情報共有を行っている。 ・その日の支援内容をふり返りながら、話し合いを行い、職員同士共有している。 ・終了後はふり返りに加え、必要に応じて申し送りノートの活用や、記録の整備に努めています。	・非常勤職員は、毎回参加は出来ないため記録の整備や口頭での伝達を丁寧に行い情報共有に努める必要があります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	・詳細まで記録しておくことで、振り返りが出来るよう良い支援が出来ると思う。 ・ヒヤリハットの活用や必要に応じて他機関との連携に努めています。	・問題行動や困りごとの記録がどうしても優先的になってしまう為うまくいったことや成功事例などプラスになった支援方法や事柄の記録にも意識を置くことが必要です。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	・短期的なモニタリングも含め、見直しが行えている。 ・おおむね六ヶ月一度丁寧なモニタリングが行なわれています。	・定期的なモニタリングの見直しは主に、児童発達支援管理責任者が行うため、各職員が計画の見直しの必要性を感じた際には職員から児童発達支援管理者へ投げかけることが出来るような関係性を築くことが必要です。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	1	・総合支援が行える様、現在進めている。 ・自立支援、創作活動、余暇活動、地域交流を踏まえて支援を行っています。 ・地域交流の機会を設けたいが、そもそも地域の行事やその関わりに対して、消極的であると感じる部分が多い。	・基本的な4つの活動を盛り込んだ療育支援をベースとしているが、地域との交流に関しては消極的な動きなので今後少しずつ進めていきたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	・言葉での発信だけでなく、自己選択出来る機会を設けている。 ・日常的に複数の遊びや活動の選択肢を用意して、子供が選べる様にしています。 ・活動や支援の場において、自身で選択する機会を今後も増やしていきます。	・発語としての表出が難しい児童の自己決定の尊重が難しい場面があるので、気持ちの汲み取りや思いの引き出しにも注力していく必要があります。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	・直接担当者会議に参加する事はないものの、会議内容については、担当者より報告を受ける等のかたちで理解している。 ・ケア会議の参加においては、その都度出席者をきちんと選定しています。	・担当者会議や関係機関との会議に出席者を出すことにより、支援者の数が減ることのないようにシフトの調整等を行い児童の療育にあたる事が出来るような体制作りをしていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	・保険や医療との連携は保護者さんを通じて行っています。 ・福祉関係の事業所さんとは、ケースにより連携をとり支援をしています。	・実際には医療関係や地域の保険関係とは希薄な関係です。どのようにすれば今後関係が出来るのか検討していきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	・申し送りは毎回行い、必要に応じて、個別に電話や会議にて共有しています。 ・随時行われており、支援に繋げる為の情報共有にも努めている。	・地域の学校は事業所に対し、直接行事予定や、下校時刻の開示が出来ない、という学校もあり、保護者を介して確認する為、後手になってしまいうケースもあり情報を得る方法を検討する必要があります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	1	・通常は保護者よりの引継ぎのみである。 ・相談支援員を通じて行う場合が多いですが、必要に応じて、園に訪問する等しています。	・就学前の園や保育園の体制や理念により、相互理解が難しいケースがあります。情報を共有したり丁寧な申し送りをいただけるよう、関係を構築していけたらと思います。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	1	・事業所発信で積極的に行なっていないが、求められれば、速やかに対応する用意はある。 ・相談支援員が居られる場合はありますが、保護者からの強い希望がない場合等は、積極的ではありません。 ・上記と同じく、特に大きな問題がない場合は、事業所間で情報共有する機会はない。	・情報提供を求められないケースも多いです。受け身にならず、こちらから積極的に発信していけるような関係性を築いていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	2	・必要に応じてセンターとの交流や情報の交換を行っています。	・現在はスーパーバイズから助言やアドバイスをいただく関係性やつながりがありません。今後、関係構築できる機会を設けていきたいです。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	7	・今の所積極的な機会は設けていません。 ・地域散策や散歩、降園遊び等で触れ合う機会がある。 ・地域の降園等で接する事はあるが、常に交流はしていない、今後交流する場があれば良いと思う。 ・実現は厳しい状況だが、準ずる活動があればと、職員間でも話している。	・現状は、外出活動時や公園遊び等の時に少し関わったり、交わったりする程度なので、今後は児童たちの障害特性を把握したり、見極めたりしたうえで、無理のない形で進めていけたらと思っています。

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	2	6	・機会があれば、参加したい。 ・今後機会があれば参加していきます。	・機会があれば参加しています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	・連絡帳や帰宅送迎時での引継ぎ等でコミュニケーションを図っています。 ・その都度伝達し、必要に応じて保護者より聞き取ります。 ・送迎時の引継ぎにて行っており、個別での電話相談も行われている。 ・送迎時や電話等で保護者と共有している。	・保護者との共通認識のもと、課題については互いに意見交換出来るような関係を構築していきたいです。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	5	・家族向けの研修等は今の所開催していません。育児力向上の為の助言等は、その都度行なっています。	・家族支援プログラムを通じてご家族の方にも対応力の向上につながるよう、今後機会があればペアレントトレーニングを学んでいきたいです。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	・利用開始時の他、随時行われている。 ・児発管より契約時に説明されています。	・追加説明や変更点などの際にも、その都度丁寧な説明がなされるよう、意識しておく必要があります。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	・思いやニーズの聞き取りを行った上で、計画を作成する様努めています。 ・日々の支援から感じ取れる部分だけでなく、家庭内の様子等も考慮しながら、最善の利益を目指している。	・発信力の弱い児童や意思決定が難しい児童さんの場合は、どうしても保護者ニーズが優先されがちです。日頃の児童の様子や変化をしっかりと把握し計画を作成する必要があります。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	・主に計画書に目を通していただき、サインにて同意を得ているが、口頭にて支援内容の説明を行える体制ではある。 ・説明後同意の上、署名を頂戴します。	・計画を示し説明を行う際、保護者が本当に同意し異議なしかわからないときがある。（サインのみをさっと書かれる場合）保護者の意見を丁寧に発信してもらうことができるような信頼関係を築いて行く必要があります。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	・面談日はその都度、日程調整しています。 ・直接の面談以外でも電話や、日々の連絡帳を通じて対応しています。 ・帰宅送迎時のちょっとした時間でも、保護者とのコミュニケーションの時間を大事にしています。	・全児童に対して定期的に悩み相談に応じているというわけではなくその都度必要に応じてという支援となっているのが現状です。今後定期的な悩み相談支援が必要か検討します。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	8	・保護者が保護者同士の交流をあまり望んでいないことや、物理的に場所の問題、時間の制約もあり、左記の様な機会、場を設ける事は難しいと思われる。 ・学校がある時期は時間的に難しく、保護者も仕事で時間が取りにくい方が多いので、日頃の送迎では、保護者、職員間のコミュニケーションを大切にしている。 ・今の所、保護者同士の交流会等の機会を設ける事はしていません。	・保護者が保護者同士の交流をあまり望んでいないことや、日程の調整他制約もあり、左記のような機会や場を設けることは難しいです。 ・年代や学校等も様々で調整が難しい部分はあるが明確に支援につながるのであれば今後実施出来たらと思います。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	・窓口となった職員より詳細の説明も行われ、情報の共有をしながら対応出来ている。 ・その都度状況確認や職員への聞き取り等行なった上で、説明を行なう様に努めています。 ・苦情の内容を正確に把握し、公平な視点を持ち対応しています。	・保護者の相談は多く聞かれるが、苦情や児童から個別に相談を受けることは少ないです。児童の思いの汲み取りにも注力していく必要があります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	・ホームページを利用している。 ・主にはHP上の活動の様子等の発信。行事予定等も会員専用ページを用いて発信している。 ・日々の子どもの活動の様子や連絡事項は随時HPにて発信出来ており、加えてお便りも発行している。	・HP、SNSを見ない世代もあるため通信や予定などの発信方法を増やすなど今後検討していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	・各関係機関との情報共有も行いながら、細心の注意も払っている。 ・職員全員留意している。 ・個人情報の管理は徹底する様に日頃から気を付けている。	・今後も引き続き、情報の取り扱いについては危機管理を持つことを継続します。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	・各関係機関との情報共有も行いながら、細心の注意も払っている。 ・職員全員留意している。 ・個人情報の管理は徹底する様に日頃から気を付けている。	・現在のところ、意思疎通の取れない保護者がおられず、配慮を行っていませんが今後のケースに需要があれば対応方法について検討します。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	8	・地域の行事に参加させていただく形で図っている。 ・地域の方の招待をする等の行事は今の所行っていない。	・施設の規模が小さいことや職員の配置状況から、地域の方にむけた行事は運営上難しいです。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	・マニュアル策定、想定はしているが、あくまでも想定であり、実際の場面では柔軟に対応出来る事を心がけている。 ・ガイドブックを作成しており、実際に避難訓練も行っている。 ・各種マニュアルを整備し、フローチャート化した物を掲示する等の工夫をしている。定期的な訓練を計画のもと実施している。 ・スタッフ全員が参加出来る様な訓練を行う事で、スタッフの意識を高め、対応能力を維持する努力をしています。	・随時行っているが、改善点等も話し合い更に良い対応につなげていきたいです。 ・想定訓練となっているため、実際に予期せぬ事象が起った際の対応に、落ち着いて平常心で導くことが出来る様日頃から職員全員が掛けておく必要があります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	・本年度より取り入れている。 ・今年度よりの義務化にあたり、計画策定している。又、計画をもとに研修や訓練の準備を進めている。	・計画を策定し研修や訓練を行うが、実際に何かあった際は、それぞれの職員がどう動くのか想定訓練にとどまっています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	・サポートシートにて確認しているが、近況に起こった事には、職員全員で周知している。 ・概ね確認している。しかし、既往歴無く突然の発症についても対応出来るよう体制整備を必要とする。 ・利用開始前と併せ、子どもの状況把握に努めている。	・既往歴無く、初めての発症の例も有り、常々慌てず、臨機応変に対応する事を心掛けます。 ・新たに対応が必要となったケースは、その時点で全職員への周知を徹底する必要があります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	・保護者を介してであるが、行われている。 ・医師の指示書をもとに保護者より情報提供してもらっている。	・事業所の設備上、受け入れが困難なケースも考えられるため、該当児童を受け入れる際には十分に情報の把握をしておく必要があります。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	・今年度よりの義務化にあたり、安全計画の策定済。今後定期的に研修、訓練を行う予定。 ・職員間での意識がけや、情報共有の他、安全計画がいつでも閲覧出来る。	・職員一人ひとりが日頃から安全管理に配慮し、意識を高めておく必要があります。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	・安全確保について、特に配慮を必要とする児童に関しては取り組み内容の共有を保護者で行っている。	・特に配慮を必要としない児童に関しても安全確保に関して意識を高めておく必要があります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	・微細な内容の事象についても、各職員がそれぞれ積極的に記録し、再発防止に努めている。 ・共有する事で各職員の意識向上にも繋がっていると感じる。 ・事実の正確な記録で共有をし、同様のリスクを避けられる様にしています。	・起こった事象についての価値観をそろえ、職員の判断基準の感覚が違わぬよう、日頃から意識を高め再発防止につながる対応について心掛けるよう留意します。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	・外部研修ののち、内部での共有等行い、意識を高めるよう努めている。 ・研修機会は今年度まだ行われていないが、防止への意識は高い。	・年間に限られた外部研修の回数であったり職員が研修に参加することで丁寧な支援に影響が出てしまう為参加できない等あるので、研修機会がある場合の職員配置数を調整する必要があります。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	・各支援計画書にも記載されている。 ・必要に応じて、ハーネス使用等で安全を確保する児童については、計画書に記載の上、事前に保護者の同意、了解を得ている。	・やむを得ず身体拘束を行う必要があるケースの受け入れについては、職員の体制や利用日の検討、他の児童との関係性等も考慮の上、保護者との共通理解のもと慎重に進める必要があります。